

自分で考え判断する力について

猛暑日が続いていましたが、朝夕は少し涼しく感じる日も増えてきました。今年の夏は、毎日のように熱中症警戒アラートが発表され、また、戸外での活動が難しい日もありましたが、井戸水をまいて地面を冷やしたり、活動の時間を調整したりしながら、いろいろな水あそびに挑戦してきました。

水あそびは、子どもたちのイメージに合わせて姿・形を変えてくれるので、楽しさの中に多くの学びを与えてくれます。子どもたちは水あそびをしながら、「どうして?」「こうするとどうなるかな?」など探究したり、いろいろなことを深く考えたり、考えたことを試したりしていきます。一人ではなく、仲間と力を合わせて一緒に行動することは、子どもたち一人ひとりの視野や考えを広げ、非認知能力と言われる「物事を柔軟に考える力」につながっていきます。

先日も、園庭で0、1歳児、3歳児の水あそびを見ていると、環境を変化させることで、新たな発見をし、そこに近づき夢中になって遊んでいる姿が見られました。0歳児では、穴をあけたといや、一斗缶から流れてくる水を容器に入れて、砂場などに運んで流したりを繰り返している子がいました。1歳児では、手やスポンジを使って石鹸を泡立て、もこもこ泡が増えていくのをおもしろがっていました。3歳児は、ガチャポンポンプの周りに集まり、ポンプのレバーを動かして水を出す子と、その水を空き容器で受ける子が、お互いのタイミングを合わせようと声を掛け合い夢中になって遊んでいました。みんな遊び方は違っていても、自分でやりたいことをやっているときの顔は真剣そのものです。

今学校で求められる力の一つに、「自分で考え判断する力」がありますが、この自分で考え判断する力は、自分のやりたいことを自分で選び、自分なりに考えたり工夫しながら最後までやり遂げる経験と、やり遂げたことを周りの大人から褒められることで身につけていきます。ご家庭でも、何かに夢中になって頑張っているときは、口を挟まず見守っていただけたらと思います。

今月の6日と7日の両日、年長の子どもたちは、坂みみょう保育園のお友だちとお泊り保育に参加します。お泊り保育の目的は、「仲間と力を合わせて新しいことにチャレンジしたり、助け合いながら自分のことは自分でする体験を通して、自分に自信を持つこと」ですが、「自分のことを自分で考え判断する力」は、乳児の時から、やりたいことを最後までやりきる体験の中で身につく「やる気」にあります。

これからも、じっくり考えて取り組めるあそびや身体をしっかりと動かすあそびを用意して、子どもたちの意見を取り入れながら、自分ができるようになったことに達成感が感じられるようにしていきたいです。

園長

防災週間

9月1日は防災の日です。西日本豪雨災害から6年が経ちましたが、被害の爪あととは未だに消えていません。あの日を忘れることはなく、防災への意識を高めることが命を守ることに繋がっていきます。防災用品などを用意することだけでなく、日頃から自分たちの住んでいる地域はどんな災害が予測されるのかなどを知っておくことや避難場所までの経路などについて家族で話しておくといでしょう。

手作りウォータースライダー  
園庭の芝山にビニールシートをしいて  
しゅーっ



タイヤを使って  
すべってみよう



だいすき♡みずあそび  
次はなにしようかな



ガチャポンポンプの周りには  
みんなが集まってくるよ



あわあわ・・・  
いいきもち



お兄ちゃんたち・・・  
はいっちゃんだね



水を出す  
水を受ける  
相手の様子を見ながら  
相談しながら  
考えながら



といや一斗缶に穴をあけ、そこから水を流すと  
上から落ちてくる水を集める子どもたち

